青森県立郷土館研究紀要　第48号,129－132, 2024. 3

令和５年度　教育普及活動紹介

中沢秀一[1)]

5th year of the Reiwa : Practical introduction of the person in charge of education dissemination

NAKASAWA Syuichi

キーワード　教育普及、出前授業、遠隔授業、土曜セミナー、休館中の活動

１　はじめに

青森県立郷土館で令和５年度に実施した教育普及活動は、「土曜セミナー」、「あおもり街かど探偵団」、「自然観察会」、「夏休みこどものくに」、「冬休みづくりまわし大会」、「移動博物館」、「出前授業」、「講師派遣」である。

本稿では、筆者が主担当として実施した児童生徒向けの「出前授業」と一般県民向けの「土曜セミナー」について詳細に紹介する。

２　出前授業

（１）出前授業の概要

出前授業は、学習指導要領に対応したテーマを設定し（佐藤 2011、福士 2021）、小学校等に出向いて実物資料を用いた解説及び体験活動を行っている。これまで学校現場の教員の意見を吸収し、改善を重ねてきた。

主な単元・テーマとして小学校 1・2 年は「昔の遊び」、小学校 3 年は「市のうつりかわり・古い道具と昔のくらし」、小学校 4 年は「郷土をひらく」（県内の事例）、小学校 5 年は「米作り」（稲作の歴史や今と昔の違い）、小学校 6 年は「縄文・弥生時代のくらし」と「長く続いた戦争」がある。学習のねらいに合わせて、これら以外の内容でも実施している。中学校・高等学校にも内容や資料を組み替えたうえで対応している。

令和 5 年度については館の長寿命化改修に係る作業との兼ね合いを考慮し、4 月から 12 月までの週 2 日（火・木曜日）限定で実施することとした。実施数は 21 件となり、内訳は多い順に、小学校 3 年の「市のうつりかわり・古い道具と昔のくらし」が 16 件、小学校 4 年の「郷土をひらく」（県内の事例）2 件、小学校 1・2 年の「昔の遊び」2 件、オンライン遠隔授業（特別支援学校中学部 1 年）が 1 件であった。例年の傾向としても、小学校 3 年の「市のうつりかわり・古い道具と昔のくらし」が最も多く、全体の約 8 割を占めている。

（２）実践紹介

①小学校 1・2 年「昔の遊び」

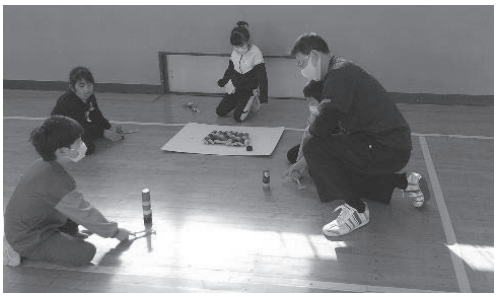
［授業時間の目安］60 分

［授業のねらい］昔の遊びを通して、当時に思いを馳せながら学習・体験をすることで、その良さに気付き、今の自分たちの遊びや生活の在り方との違いを知る。

［活動の内容］一般的な「おはじき遊び」、「ビー玉遊び」、「めんこ」、「けん玉」、「空気鉄砲」、「だるま落とし」のほか、津軽地域特有の遊び「づぐりまわし」（「づぐり」は軸の部分が通常の物よりも丸く・太く、雪の上でも力強く回るように工夫されたコマ）の 7 種類を基本とする。それらの遊び方について学芸職員が実演を交えて紹介した後で、児童が「遊び」を交代しながら体験していくという内容である。最後には、学び、体験した事の感想を数人の児童が代表して発表し、学習内容を振り返るという形で構成している。

１）青森県立郷土館　学芸課　主任研究主査　中沢秀一（〒030-0802 青森市本町２丁目 8-14）

遊び方紹介（けん玉）



だるま落とし

②小学校 3 年「市のうつりかわり・古い道具と昔のくらし」

［授業時間の目安］90 分

［授業のねらい］古い道具を通して昔の人々の知恵や工夫に気付くとともに、それを手掛かりに身近な地域や人々の生活の様子を捉える。

［活動の内容］古い道具を、衣・食・住の 3 つの要素でコーナーに分けて展示する。授業の前半で学芸職員がコーナー毎の道具を解説し、後半では体験活動を行う。最後には、学び、体験した事の感想を数人の児童が代表して発表し、学習内容を振り返るという形で構成している。授業では、道具の名前や使い方だけでなく、より便利に、より快適にという人々の願いを受けて道具が変わっていった事を説明する。一方で「便利さ」、と引き換えに失ったものがあることにも触れ、昔の生活の中にある良い部分にも気付かせるよう配慮している。また、授業では児童が自らの手で、道具の使い勝手や工夫を確かめる事を大切にしている。特に人気があるのは、衣のコーナーでは洗濯板で布等を洗う体験、食のコーナーでは石臼で大豆を挽いて「きな粉」をつくる体験、住のコーナーでは天秤棒を使って水桶を担ぐ体験である。

衣のコーナーの説明

食のコーナーの説明

住のコーナーの説明

③小学校 4 年「郷土をひらく」（県内の事例）

［授業時間の目安］90 分

［授業のねらい］県内の事例から、地域の人々の生活を向上させてきた先人の働きについて、画像資料や体験活動等から学ぶ。各児童が、先人たちの努力や工夫、苦労を具体的に考えられるようにする。

［活動の内容］社会科「郷土をひらく」では地域の発展に尽くした先人について学ぶことになっている。使用する教科書は全国版であるため、他県の内容（例としては、熊本県の国宝通潤橋を作った布田保之助等）となっている。そこで、青森県の開拓の代表的な事例として十和田市の「三本木原開拓」について、指導者である新渡戸伝とともに紹介した後、開拓の道具を使った体験活動を行っている。穴を削る、掘る時に使用する道具のコーナー（鍬、鋤、プラウ類等）、土や岩石を運ぶ道具のコーナー（俵、もっこ類）、衣服のコーナー（蓑、菅笠、股引、長着、草履類等）を設け、それぞれの説明をした後、児童が当時の衣服の着用や、道具の使用を体験し、当時の人々の努力や工夫を実感できるように留意している。

画像資料を使っての解説

土や岩石を運ぶ道具コーナー

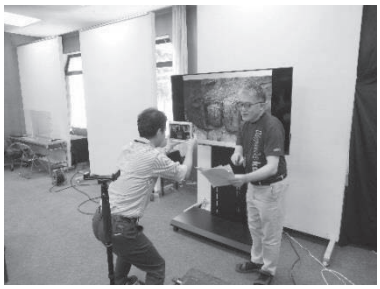
衣服のコーナー

④オンライン遠隔出前授業　中学校 1 年生社会科「縄文時代の人々の生活」

［授業時間の目安］60 分

［授業のねらい］縄文時代の人々の生活について、生徒が教科での学習時の疑問点を、当館の考古分野の学芸員に質問し、答と解説から学習を深める。

［活動の内容］参加校は、青森県立第一養護学校・高知県立若草特別支援学校・筑波大学附属桐ヶ丘特別支援学校である。疑問点や、生徒がより詳しく知りたいと思った事項を青森第一養護学校の教諭が取りまとめ、質問形式にした。その質問を事前に受けて、当館の考古分野の学芸職員が回答と解説内容を検討し補助資料作成等を行った。教育普及担当の学芸職員は依頼校との連絡・調整、機器の設定を行った。授業の際には各校と当館をオンラインで結び、タブレットで回答者の表情や資料を撮影した。



質問に対する回答・説明

（３）評価

今年度の出前授業は、期間・曜日を限定して行ったために、件数においては例年の半分以下になったものの、オンライン遠隔出前授業も含めた内容については充実したものを実施することができた。実施後に送られてくる児童・生徒のお礼の手紙などを見ると、「今まで知らなかったことを知ることができた。」、「古い道具に触れることで、昔の人の知恵がすごいことがわかった。」等の感想を書いてくれていた。これからも、児童・生徒が学習への意欲を向上させるきっかけとなるような出前授業をめざして、活動に取り組んでいきたい。

３　土曜セミナー

（１）土曜セミナーの概要

土曜セミナーは、郷土の歴史や文化、自然などについて、学芸課職員が一般向けに分かりやすく話しをする無料の講座である。令和 2 年 10 月以降の休館後は県の関連施設で行うようになり、令和 5 年度は青森県総合社会教育センターで計 13 回実施した。

多くの方に参加していただくため広報に力を入れた。青森県教育委員会の広報媒体への情報掲載のほか、各回の開催前にインスタグラムやＸへの投稿で周知を図った。

ゲストキュレーターの幅広い見地を、より多くの県民に知って頂きたいということから、講演メンバーにゲストキュレーターも加えていたが、各分野によって職員とゲストキュレーターの担当バランスに偏りが生じてきたために、令和 5 年度は、前年度まで継続してきたゲストキュレーターによる講演を行わず、当館の学芸職員のみで実施した。

次に、筆者が担当した回の詳細について実践事例として紹介する。

（２）第 10 回土曜セミナー「郷土を拓く～三本木原台地開拓について～」

［実施時間］90 分

［準備］前述の出前授業③で紹介した「三本木原開拓」の内容を基本として、内容を一般県民向けに詳細にした補助資料を作成した。出前授業で使用している道具の一部を展示しセミナー後半の体験活動の準備を行った。

［内容］画像資料を使って三本木原台地開拓の様子や指導者である新渡戸伝、事業を継承した新渡戸家の人々について解説し、その後質疑応答、体験活動を行った。体験活動では、参加者は開拓で使用した道具の使い方の説明

を受けた後、実際に道具を手に持ち、使用する体験をした。

（３）評価

今年度の土曜セミナーは、全 13 回を学芸課全職員で担当したことで、県立郷土館の活動としての独自性を発揮することができた。各分野の担当職員が自分の研究成果やその分野に関連した内容について話すことはもちろんのこと、考古分野担当と教育普及担当が協働した複合的な活動を取入れるなど、新たな取組みを発信することができた。また、筆者自身は初めて土曜セミナーの講師をすることになり、不安もあったが、普段行っている出前授業とは違った雰囲気の中、資料を整える等十分準備をした。自信を持って講演出来たことは、出前授業の内容や伝え方を深める意味で、良い経験となった。

会場の様子

画像資料解説

体験資料説明

４　おわりに

令和 6 年度以降も館の長寿命化改修に係る作業や工事が予定されており、それを考慮した計画で教育普及活動を進める必要がある。また、改修が終わって再開してからの教育普及活動についても検討・準備をしていく必要がある。

このような中で令和 6 年度の出前授業は、教育普及担当職員を中核として１名で実施可能な授業案を行う方向で準備している。

また、土曜セミナーについては、学芸課全職員が行った令和５年度の結果を踏まえて、さらに館と学芸課職員の個性を発信できるように、講演テーマの設定と配置、効果的な広報等の改善を図りたい。

そして筆者自身も、研鑽を積んでいきたい。

引用・参考文献

佐藤琢　2011　移動博物館「古い道具と昔のくらし」について」　青森県立郷土館研究紀要 第 35 号　青森県立郷土館　P143-146

佐藤琢　2012　「青森県立郷土館の小・中学校を対象とした移動博物館についてⅢ」　青森県立郷土館研究紀要 第 36 号 青森県立郷土館　P97-98

福士道太・豊田雅彦・滝本敦　2018　「地域教材を生かした出前授業の実践」　青森県立郷土館研究紀要　第 42 号　青森県立郷土館　P179-185

福士道太　2019　「新学習指導要領とこれからの出前授業」　青森県立郷土館研究紀要　第 43 号　青森県立郷土館　P183-186

小山隆秀　2021　「新型コロナウイルス感染症拡大下における博物館活動と民俗研究」　青森県立郷土館研究紀要　第 45 号　青森県立郷土館　P95-110

福士道太　2021　「「古い道具と昔のくらし」の学習について」　青森県立郷土館研究紀要　第 45 号　青森県立郷土館　P161-168

神康夫・小山隆秀・中沢秀一　2022　「オンライン会議システムを活用した博物館の試み」　青森県立郷土館研究紀要　第 46 号　青森県立郷土館　P81-94

中沢秀一　2022　博物館の調査・研究「教育普及分野」　郷土館のモノ語り№10（令和４年度青森県立郷土館博物館の仕事普及活動啓発事業）　青森県立郷土館　P12-13